

第八項 探海錨(附)水底電線切斷要具

探海錨ハ當初専ラ管制水雷(有線水雷)ヲ無効ナラシムルニ用キラレ明治十一年軍艦扶桑ノ齋ラストコロニシテ二種アリ即チ(甲)爆發探海錨(乙)普通探海錨之ナリ(甲)ハ敵ノ妨害ヲ顧慮シ急速ヲ要スルトキニ用ヒ(乙)ハ敵ノ妨害無キ場合電纜ヲ引揚ゲ其ノ性質ヲ知り尙出來得ベクンハ之ヲ追求シ倍心電纜接續函ヲ無効ナラシメムトスルニアリ

二十七、八年戰役及三十七、八年戰役ヲ通ジ敵地ヲ占領スルヤ我艦船ヲ速ニ入港セシムルヲ要セシハ前者ニ於ケル馬公占領、後者ニ於ケル大連占領ノ場合ノ如キ然リシガ實用スルニ至ラザリシモ本要具ニ依ル海底電線切斷作業ハ二、三實行セラレタリ三十七、八年戰役ノ教訓ニ依ルニ本作業ニ關スル收獲左ノ如シ

- 一、電信線路ノ正確ナル海圖ヲ有スルコトナク深海ニ於テ海底線ヲ搜索スルハ至難ノ事業ナリ依テ本作業ハ概シテ其ノ接陸點ニ近ク行フテ可トス
- 二、海底深キ時ハ特種船ニアラザレバ之ヲ鉤捉スルコトヲ得ズ
- 三、電線接陸點ヲ防禦スルニ砲臺ヲ以テセバ海岸ニ近ク作業スルハ極メテ困難ナリ
- 四、特種船ヲ用フルトキハ深海ニアラザレバ洋中ニ於テ電纜ヲ搜索スルコト難事ニアラズ而シテ現今普通海圖ニ記載セルガ如キ位置ヲ信用シテ作動スルモ充分成功ノ見込アリ
- 五、淺海ニ於テハ小形漁船ヲ用ヒ夜間ニ於テ尙電纜ヲ拘捉スルコトヲ得
- 六、淺海ニ於テ位置明瞭ナルトキハ潮流若クハ順風ヲ利用セバ支那帆船等ヲ用フルモ尙成功ノ望ナキニアラズ
- 七、巡洋艦ニ用具ヲ備ヘ相當ノ教練ヲ與ヘバ深海ニ非ラザレバ切斷作業容易ニ成功ノ望アリ
- 八、電纜ヲ水上ニ引上グルニハ淺海ト雖少數ノ人員(人力)ニテハ不可能ナリ
- 九、電纜ヲ切斷スルニハ特製鋸ヲ用フルテ最モ適當トス

斯クテ戰後(四十一年)急行探海法ニ就キ更ニ實驗ヲ重ヌルトコロアリシガ同年八月ヲ以テ其ノ實用ニ適セザルヲ認メ之ヲ廢止セシガ之ト相前後シ軍艦鎮遠ヲシテ同年海軍大演習ニ際シ主トシテ海底電線切斷ニ要スル要具及作業法ニ關スル實驗ヲ爲サシムルトコロアリシガ更ニ本要具ニ關スル根本的研究

遂行ノ用途ヲ以テ明治四十三年七月探海要具改良調査委員會ヲ設ケ先ヅ驅逐艦水雷艇及艦載水雷艇ヲ以テ之ガ實驗調査ニ着手シ翌四十四年三月ニ至リ四十尋以内ノ淺海ニ於ケル實驗ヲ結了シ右艦艇ヲ以テスル探海要具ニ就キ斷案ヲ得タリシガ尙引續キ高千穂ニテ四十尋乃至百尋海面ニ於ケル實驗調査ニ着手シ大正二年三月之ヲ了シ軍艦ニ於テスル探海要具及探海法等ニ就キ報告スル所アリタリ

右ニ依リ概ネ淺海ニ於ケル探海要具ハ實驗ヲ了リシモ更ニ深海ニ於テ軍艦ヲ用ヒ電線ヲ捕捉切斷シ其ノ斷片ヲ把握シ來ルベキ水底電線切斷要具ヲ調査決定セムガ爲大正二年十月更ニ委員ヲ設ケ軍艦高千穂ヲ以テ大正三年六月之ガ第一次實驗ニ着手シ七月中旬迄ニ第三次實驗ニ進ミ尙漸次歩ヲ進メムトシテ調査中日獨戰役ニ會シタルヲ以テ當時調査改良中ノモノヲ不取敢兵器ニ採用スルコトナレリ即チ左ノ如シ

水底電線切斷要具構成概要

一、水底電線切斷要具ハ各種ノ錨、錨索、錨鏈及張力計等ヨリ成リ錨種ニ依リ海底線ヲ鈎提揚收シ若クハ之ヲ切斷ス

二、錨ノ種類其ノ用途

一、「オルヂナリー、グラブネル」(通常用)五〇呎、二二五呎

各一

普通四ツ目錨ノ如キモノニシテ砂石又ハ泥底ニ用フ

二、「ロングプロング、クラブネル」(砂泥用)二一五呎ノモノ

一

三、「ジヨンス、パテント、ロック、グラブネル」(岩石用)三二〇呎ノモノ
圓錐形ニシテ錨爪短ク専ラ岩石ノ海底ニ用フ

四、「ジヨンス、パテント、マッド、グラブネル」(深泥用)五〇〇呎ノモノ
錨爪長大ニシテ深泥ノ海底ニ埋没セル電線ヲ拘提スルニ用フ

五、「カッチング、アンド、ホールゼング、グラブネル」(切斷保持用)
深海ニ於テ電線ヲ引揚ゲ得ザルトキ之ヲ切斷シ其ノ斷片ヲ保持シ來ルモノ

三、錨索ハ周二吋半ノ柔軟鋼線索ニシテ長サ一〇〇尋ノモノ三條、同五〇尋ノモノ一條ヲ以テ一組トシ每條一端ニハ「シムプル、

リンク、スウキプル、リンク」又他端ニハ「シングルリンク」各一個ヲ付シ水深ニ應ジ適宜接合スルモノトス

四、錨鏈ハ直徑一吋長サ一五〇尋ノ鐵鏈ニシテ錨ニ接シ錨索ノ一端ニ接續ス

五、張力計ハ最大示度一〇屯ノモノニシテ艦内ニテ錨索ノ内端ニ整備ス

(備考)括弧内ハ爾後ノ改名ニ依ル

斯クテ次デ大正三年八月敷設水雷改良調査委員會ヲ組織セラルルヤ作戦上ノ要求及作業ノ難易等ヲ考慮シ相當ノ速力ト航續力トヲ有スル大型艦ヲ以テ深海ニテ切斷作業ヲ行フノ要アルト共ニ深海ニ於テ水底電線ヲ引揚ゲ之ヲ切斷スルハ甚ク困難ナルヲ以テ勢ヒ適當ノ方法ヲ講ジ水中ニテ之ヲ切斷スルノ必要ヲ認ムル方針ノ下ニ之ガ改良調査ヲ行ヘシガ爾來引續キ研究中ニ屬ス